

An aerial photograph of Iwate City, Japan, showing a wide river in the foreground, a dense urban area in the middle ground, and a range of mountains in the background. The text '第2章 岩出市観光の現状と課題' is overlaid on the image.

第2章 岩出市観光の現状と課題

岩出市観光の現状

i) 観光の振興

- 交流人口の増加による地域活性化を図るため、観光振興を重要施策と位置づけ、平成 26 年度から旧和歌山県議会議事堂、ねごろ歴史資料館の整備を進め、平成 28 年 4 月に両施設がオープンしました。また、平成 29 年 12 月に観光拠点となる道の駅「ねごろ歴史の丘」がグランドオープンしました。
- 観光施設の整備やアクセス道路である京奈和自動車道紀北西道路及び県道泉佐野岩出線の整備、イベントの実施、プロモーション活動等の効果もあり、平成 26 年に 796,955 人であった市内観光客数は令和元年には、1,719,633 人まで増加し、令和元年の目標値であった 150 万人を達成しました。
- 広域観光における地域間連携を図り、近隣市町の魅力的な観光資源をつなぎ、周辺地域一体での回遊性を高めることで、観光客の増加に取り組んでいます。
- 貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町、和歌山市、紀の川市と紀泉地域の広域観光に関する協定を結び、各市町の地域資源を活用した広域観光の推進に取り組んでいます。
- 根来寺の認知度を高め、観光イメージを確立するため、観光協会等と連携のもとパンフレット、ウェブサイト、SNS 等様々な媒体を活用した観光情報発信を強化するとともに、「紀州根来寺かくばん祭り」「花見時の大門ライトアップ」「いわで夏まつり」など恒例イベントを毎年実施し、季節に応じた本市魅力の発信に取り組んでいます。
- 観光産業の活性化を図るため、観光施策については行政主体から民間主体に移行させることが必要です。観光、商工、まちづくりの関係者・団体が集まるプラットフォームの形成を図るなど、多様な主体による連携を構築・強化することで観光振興に向けた活動の活性化に取り組んでいます。
- 新たに整備された観光拠点である道の駅「ねごろ歴史の丘」を活用し、更なる誘客を図るため各地のイベントへの出展や旅行会社訪問によるプロモーションを実施することで、個人観光客及び観光バス等による団体客の取り込みに努めています。
- 観光客数は、令和元年まで順調に伸びてきましたが、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、観光産業は大きな影響を受けました。感染防止対策を取るとともにウィズコロナ、アフターコロナに向けた観光戦略の検討が必要となります。

岩出市観光の現状

ii) 観光資源の創出

● 根来寺を中心として、春の桜、秋の紅葉など美しい季節の彩を活かした観光PRに努めるとともに、平成28年4月の旧和歌山県議会議事堂(一乗閣)の移築復元、ねごろ歴史資料館のオープン、平成29年12月の道の駅「ねごろ歴史の丘」のグランドオープン、令和元年9月の根来寺の大伝法堂・大門など6棟の国重要文化財指定、令和2年11月の根来寺遺跡展示施設のオープンなど、新たな観光資源を活かした観光基盤の整備に取り組んでいます。

● 地方創生として、観光振興施策による交流人口の増加に取り組んでいます。観光資源の魅力向上、観光情報の発信、新たな観光資源の創出等を図るため「いわでもよいよい推進事業」の一環として、観光拠点施設の整備を行い、「おもてなし」環境の向上を図るための施設を整備しました。

● 整備した施設を活用して、更なる誘客を図るため、本市の観光イメージを確立し、「根来」のブランド化に取り組むことで、観光地としての知名度を向上させるとともに、地元業者と連携し、観光客の購買意欲を刺激する地域産品やお土産商品を開発することで観光消費の増加に取り組んでいます。

なお、「根来」のブランド化は本市の歴史文化資源を象徴する重要な取組であり、観光案内所や周遊施設と連動させながら、一過性で終わらせず継続的に活用します。市内各エリアの資源とも束ねて発信し、観光関連事業者の取り組み(表示物、商品、体験、PR等)への展開を支援することで、市内外への認知拡大と消費拡大に繋がります。

● 外国人旅行者については、誘客促進に取り組むとともに、多言語対応など観光しやすい環境づくりを進める必要があります。

● 根来地域を周遊できるモデルルートを策定し、地域内に点在する歴史的建造物等の概要や場所を説明する観光案内板を根来のイメージに基づき統一して整備することで、観光地としての利便性と魅力向上のための取組を進めています。

● 根来寺という素晴らしい観光資源があり、観光拠点施設が整備されたことで、立ち寄る観光客数は増加していますが、観光消費は伸び悩んでいます。観光に必要な素材として「食」は大きな要素であることから、市オリジナルのグルメ商品等の開発を行い、観光消費の拡大に取り組んでいます。

● 観光ニーズが多様化し旅行形態が変化する中、ここにしかないような体験型の観光が求められています。本市の歴史・文化・食などの観光素材を活かした体験型観光の提供を図ることで、滞在型観光メニューの開発に取り組んでいます。

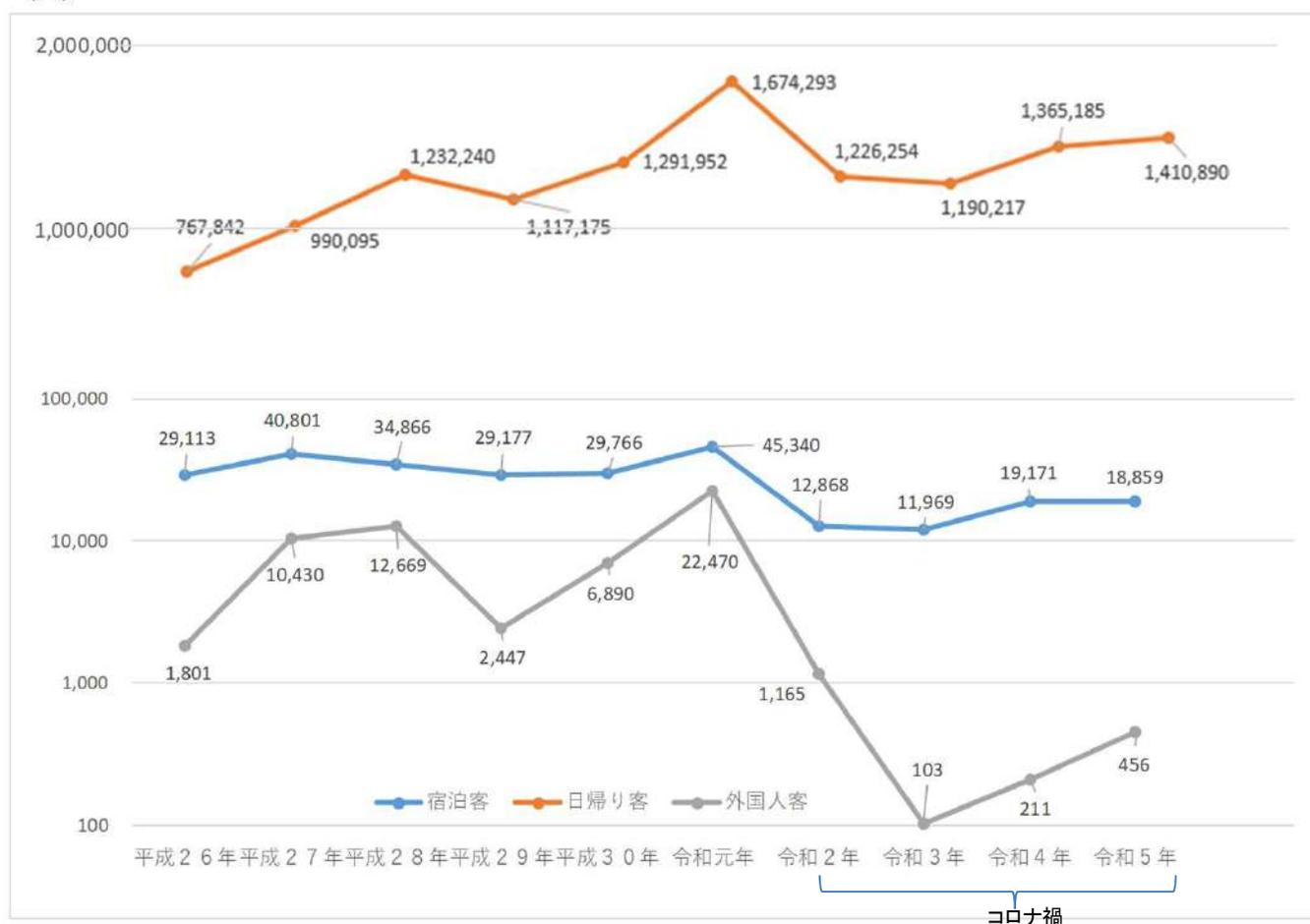
● 岩出市文化文教ゾーン連絡協議会では、各施設(新義真言宗総本山根来寺、和歌山県植物公園緑花センター、近畿大学生物理工学部、和歌山県立森林公園根来山げんきの森、ねごろ歴史の丘、岩出市民俗資料館、岩出市立岩出図書館)が連携して、年1回イベントを開催し、県内外へのPRを行っている。

岩出市観光客数・宿泊客数

i) 観光客全体の特徴

- 観光客全体の99%が日帰り客となっており、年々、本傾向は顕著となっています(平成26年96%→令和5年99%)。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の前後を比較すると、日帰り客は増加傾向にあり、コロナ前の水準に戻りつつあります。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の前後を比較すると、宿泊客と外国人客は微増傾向にあるが、コロナ前の水準には戻っていません。

(人)



岩出市観光客数・宿泊客数

ii) 月別宿泊客数の特徴

○過去10年の月別宿泊客数が多いのは、3月(25,482人)、7月(24,907人)、8月(31,414人)、11月(24,799人)となっています。

○令和5年の月別宿泊客数は、令和元年と比較して総数(規模)としては、コロナ前水準まで回復していません。一方で月別の増減の傾向(季節による山谷)は令和元年と概ね同様であり、回復局面においても季節変動のパターン自体は大きく変わっていないと考えられます。

月別宿泊客数推移(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
令和5年	1,213	923	1,682	1,279	1,652	1,618	1,573	2,570	1,475	1,725	1,648	1,501	18,859
令和4年	1,773	1,442	999	874	1,331	1,429	1,924	1,942	1,699	2,109	1,909	1,740	19,171
令和3年	881	1,013	1,521	1,012	291	151	118	1,827	755	1,563	1,375	1,462	11,969
令和2年	2,965	1,626	903	866	434	660	826	722	906	1,015	1,119	826	12,868
令和元年	1,903	2,502	4,060	4,427	4,863	4,632	4,629	5,051	3,417	2,747	4,545	2,564	45,340
平成30年	2,048	1,911	3,107	1,830	2,201	2,113	2,919	4,045	2,256	2,234	2,532	2,570	29,766
平成29年	2,040	2,280	2,903	1,915	2,472	2,047	2,279	3,530	2,409	2,277	2,662	2,363	29,177
平成28年	1,836	2,162	3,247	3,792	2,280	3,288	3,727	4,181	2,788	3,082	2,571	1,912	34,866
平成27年	2,016	2,589	3,696	3,912	3,423	3,308	4,106	4,421	3,394	4,371	3,497	2,068	40,801
平成26年	1,897	1,920	3,364	1,998	2,027	1,305	2,806	3,125	2,816	2,514	2,941	2,400	29,113
総数	18,572	18,368	25,482	21,905	20,974	20,551	24,907	31,414	21,915	23,637	24,799	19,406	271,930

岩出市観光客数・宿泊客数

iii) 月別日帰り客数の特徴

○過去10年の月別日帰り客数が多いのは、1月(1,933,824人)、3月(3,543,132人)、4月(1,409,063人)、11月(1,178,265人)となっています。ただ、1月及び3月は過去10年を通じて繁忙期であるが、4月及び11月は近年閑散傾向にあります。

○月別日帰り客数はコロナ前の水準に戻りつつありますが、令和5年は令和元年と比して4月、5月、11月の客数が少ない状況にあります。

○過去10年の月別日帰り客数の平均値は1,022,178人であり、最大値の3月(3,543,132人)、最小値の2月(384,243人)と月により大きな差異があります。この傾向は近年若干緩和されてはいますが、1月、3月の繁忙期と2月の閑散期の差異は依然として大きくなっています。

月別日帰り客数推移(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
令和5年	231,154	36,292	649,620	69,402	49,784	44,327	36,627	83,029	34,941	75,088	48,635	51,991	1,410,890
令和4年	265,391	30,654	405,270	276,369	46,624	40,607	39,824	48,794	31,894	68,724	56,321	54,713	1,365,185
令和3年	192,509	62,511	538,017	42,308	49,838	37,436	38,268	26,329	33,306	65,518	63,600	40,577	1,190,217
令和2年	234,772	41,114	430,913	36,770	4,023	36,450	35,819	38,963	35,833	69,708	217,387	44,502	1,226,254
令和元年	243,741	42,909	687,015	124,299	84,243	44,677	36,839	84,915	40,200	68,569	153,405	63,481	1,674,293
平成30年	182,788	36,240	357,866	125,383	84,036	50,483	34,536	95,595	36,700	65,257	170,948	52,120	1,291,952
平成29年	160,574	39,041	88,178	266,892	85,992	53,374	44,299	98,842	50,457	43,100	132,962	53,464	1,117,175
平成28年	207,176	37,513	180,673	208,753	99,875	50,946	61,112	94,120	42,165	67,273	132,387	50,247	1,232,240
平成27年	95,570	32,565	119,306	144,308	109,412	45,937	44,432	97,513	54,306	86,783	114,621	45,342	990,095
平成26年	120,149	25,404	86,274	114,579	66,407	36,939	38,306	78,890	37,479	50,652	88,001	24,762	767,842
総数	1,933,824	384,243	3,543,132	1,409,063	680,234	441,176	410,062	746,990	397,281	660,672	1,178,265	481,199	12,266,141

岩出市観光客数・宿泊客数

iv) 月別外国人客数の特徴

○過去10年の月別外国人数は、令和元年をピークに大きく減少傾向にあり、若干の微増傾向はあるものの、近年においても数字は改善していません。

○コロナ前の傾向として8月、9月よりも4月～7月にかけての訪問が多くみられます。

○過去10年の月別外国人数の平均値は4,887人であり、最大の4月(7,344人)、最小の1月(1,990人)で大きな差異が見られます。また、4月～8月にかけての訪問が多くみられます。

月別外国人推移(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
令和5年	37	21	16	16	69	24	11	132	32	15	47	36	456
令和4年	9	13	1	3	8	18	12	64	18	8	28	29	211
令和3年	4	9	2	0	0	0	0	1	4	14	21	48	103
令和2年	1,096	2	1	2	5	0	21	20	1	6	7	4	1,165
令和元年	248	937	1,081	2,783	2,986	2,943	2,955	2,085	2,078	1,217	2,331	826	22,470
平成30年	68	136	113	475	534	947	1,153	1,360	405	573	803	323	6,890
平成29年	76	474	52	439	115	44	93	560	142	155	236	61	2,447
平成28年	362	726	999	2,107	577	1,770	1,880	1,727	1,236	925	309	51	12,669
平成27年	70	557	832	1,430	1,199	1,240	1,049	1,012	349	667	1,538	487	10,430
平成26年	20	9	98	89	104	27	147	234	129	326	261	357	1,801
総数	1,990	2,884	3,195	7,344	5,597	7,013	7,321	7,195	4,394	3,906	5,581	2,222	58,642

岩出市道の駅における現状と課題

本市の観光に係わる「強み」や「弱み」をSWOT分析(※)により抽出し、現状の観光振興における道の駅における現状と課題を整理します。整理にあたっては、根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン(平成25年1月策定)をベースに、近年における状況を加味して作成したものととなります。

(※)SWOTとは「Strength 強み」「Weakness 弱み」「Opportunity 機会」「Threat 脅威」の4つの視点で自地域の状況を分析する手法

岩出市のあらまし～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成 25年1月策定～

- S：和歌山市や泉南地域、大阪都市圏への交通アクセスに恵まれている。
- S：大阪方面から和歌山を訪れる場合の玄関都市となっている。
- S：令和6年5月末時点での人口は3,941人(男26,014人、女27,927人)、平均年齢45.8歳、高齢化率25.0%
- T：岩出市の人口ビジョンでは令和年度に自然減が社会増を上回る見込み。
- O：和歌山市や大阪府のベッドタウンの機能を有する。

I. 岩出市

I-1. 岩出市のあらまし

和歌山県の北部に位置し、和歌山市の中心部から約15km、大阪府中心部から約50km、関西国際空港からは約30kmの距離にあり、北は大阪府泉南市及び阪南市、東と南は紀の川市、西は和歌山市に接している。

和歌山市や泉南地域、大阪都市圏への交通アクセスに恵まれており、大阪方面から和歌山を訪れる場合の玄関都市となっている。

市域は南北約8.8km、東西約5.7kmに広がり、面積は38.50k㎡となっている。

北部は和泉山脈が東西に連なり、緑豊かな山並みを形成しており、市南部には紀の川が東西に流れている。また、和泉山脈と紀の川に挟まれた平野部には市街地や田園地帯が広がっている。

昭和31年に岩出町、山崎村、根来村、上岩出村及び小倉村の一部(船戸、山崎)が合併し新制「岩出町」となった。その後、既成集落周辺での宅地開発やニュータウン開発などが進み、人口は増加の一途をたどり、平成18年4月には、単独での市制を施行し、「岩出市」として、新たに歩み出すこととなる。

平成24年4月末時点の人口は53,237人、世帯数は21,074世帯で、和歌山市や大阪府のベッドタウンとしての機能を果たしている。

 強み：立地条件○

 脅威：人口動態△

 機会：ベッドタウン

岩出市道の駅における現状と課題

岩出市観光の現状

～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成 25年1月策定～

- S：根来寺周辺に貴重な歴史的文化的資産のほか自然を体験できる施設が多数存在。
- W：岩出市の観光地としての知名度が全国、近畿圏内においても低い。
- S：京奈和自動車道等の整備により岩出市へのアクセス向上。
- S：岩出駅と船戸駅の存在。岩出駅と樽井駅のバス運行。
- W：宿泊施設が少なく、根来寺周辺では観光旅館1軒のみ。

I-2. 岩出市観光の現状

(1) 概要

市北部に位置する根来寺周辺には、貴重な歴史的文化的資産のほか自然を体験できる施設も多数存在するが、岩出市の観光地としての知名度は全国のみならず近畿圏内においても低いのが現状である。

 強み：根来寺周辺に集中

次に、岩出市へのアクセスについては、府県道泉佐野岩出線の4車線化や京奈和自動車道が整備されることにより、自動車でのアクセスは飛躍的に向上してくる。また、鉄道では市南部にJR和歌山線の岩出駅及び船戸駅があり、バスでは岩出駅と泉南市の樽井駅を結ぶ路線が運行されている。しかし、市最大の観光地である根来寺周辺への公共交通機関でのアクセスは非常に少なく、今後の課題といえる。

 強み：岩出市へのアクセス○

また、宿泊施設については、市内にはホテル・旅館が3軒あるが、根来寺周辺では観光旅館1軒のみとなっている。

 弱み：宿泊施設×

岩出市道の駅における現状と課題

岩出市観光の現状

～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成 25年1月策定～

- S：根来寺境内で桜や紅葉がみられる。
- W：根来寺周辺のみ観光となっている。

(2) 観光資源のあらし

観光資源の主だったものとしては、根来寺及びその周辺の歴史的・文化的建造物のほか、根来寺境内の桜や紅葉などが挙げられる。

これらの時季には多くの観光客が訪れるが、そのほとんどは根来寺周辺のみ観光となっている。



(根来寺境内の紅葉谷)



強み：桜や紅葉



弱み：根来寺周辺に集中

岩出市道の駅における現状と課題

岩出市観光の現状～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成 25年1月策定～

0: 「いわで夏まつり」「紀州根来寺かくぼん祭り」による市内外の来場者がある

(3) 観光イベント

主な観光イベントとしては、毎年8月の最終土曜日に行われる「いわで夏まつり」、同じく11月下旬に行われる「紀州根来寺かくぼん祭り」が挙げられる。

「いわで夏まつり」は、元気で活力あふれる岩出市を内外にアピールし、また都市化の進む岩出市において失われつつある人と人とのふれあいの場を提供するため、市南部の大宮緑地総合運動公園で、花火大会のほか、根来鉄砲隊による演武、岩出おどり、地元商店による楽市等が開催されており、市内外を問わず、毎年多くの方が訪れている。

「紀州根来寺かくぼん祭り」は、多くの人に根来寺や周辺の歴史文化に興味を持ってもらい、これを体感していただくために、根来寺の開祖「かくぼん上人」の名前を戴いて開催している祭りで、平成24年度で第15回を迎える。内容としては、郷土芸能のほか、根来塗りなどの各種体験コーナー、野点、物産品販売等を実施している。



(「いわで夏まつり」の花火)



機会：まつりイベント

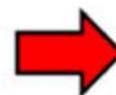
岩出市道の駅における現状と課題

岩出市観光の現状 ～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成 25年1月策定～

- S：ねごろ大唐、なばな等の特産品が消費者から好評
- W：特産品の生産量が少ない。
- W：土産物の販売先が少ない。

(4) 特産品

市特産の農産物としては、ねごろ^{ねごろ}大唐（辛みの少ない大粒のシシトウ）・なばな等が挙げられる。旬の時期となれば、道の駅「根来さくらの里」や直売所で販売され消費者からは好評を博しているが、いずれも生産量が少なく、現状のまま観光土産物の目玉とするのは難しい状況となっている。また、花卉類の栽培も盛んで特にカーネーションは市を代表する花卉となっている。



強み：特産品が消費者から好評

一方、土産物としては根来塗りや岩出市のイメージキャラクター「そうへいちゃん」のキーホルダー等の小物があるが、現状では取り扱い店が少なく、販売店の拡充が課題となっている。



(岩出市特産の「ねごろ大唐」)



弱み：特産品の生産量少ない
土産物の販売先が少ない

岩出市道の駅における現状と課題

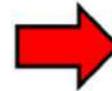
岩出市観光の現状 ～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成 25年1月策定～

S：歴史的景観を備えた酒蔵の存在
O：飲食店を目的とした市外からの訪問者が増加傾向にある。

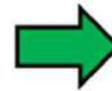
(5) 食

市内に歴史的景観を備えた酒蔵があり、地酒の購入のほか蔵見学など
できる。

また、近年、市の発展に伴い様々な飲食店が新規出店している。特にイタリアンを中心に洋食の店が多く、中には自家製や地場産の野菜にこだわる店も多くある。飲食店を目的とした市外からの訪問者も増加傾向にあり、市の特産物と提携できれば、絶好の観光PRとなる。



強み：特産品が消費者から好評



機会：飲食店を目的とした訪問者増加

岩出市道の駅における現状と課題

岩出市観光の現状 ～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成 25年1月策定～

0：境内に国宝の大塔や重要文化財の大師堂があり、歴史自然散策に多くの人々が参拝し、ホタル鑑賞が可能な根来寺。

Ⅲ. 観光資源

Ⅲ-1. 根来街道及び周辺地域の観光資源の現状

(1) 岩出市

①根来寺

新義真言宗の総本山である一乗山大伝法院根来寺。古くは学問の寺として栄え、境内には国宝の大塔や重要文化財の大師堂などの建物がある。

春の桜、新緑、秋の紅葉でも有名で、歴史自然散策に多くの人々が参拝している。

また、毎年6月頃には境内の紅葉谷・大門周辺でホタルを鑑賞することができる。



(国宝：根来寺大塔)

岩出市道の駅における現状と課題

岩出市観光の現状 ～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成 25年1月策定～

0：季節ごとの風景を楽しみながら自然散策ができる根来寺前山五百仏山遊歩道
0：四季折々の花を絶やさない和歌山県植物公園緑花センター。

②根来寺 前山 五百仏山遊歩道

四国八十八カ所の石仏が配された約3 kmのコースは、桜や新緑、紅葉など、季節ごとの風景を楽しみながら自然散策ができる。

③和歌山県植物公園緑花センター

四季折々の花を絶やさないパノラマ花壇や700種類の観葉植物が茂る温室や子どもに人気のわんぱく広場などがある。



(和歌山県植物公園緑花センター)



(根来山げんきの森)

岩出市道の駅における現状と課題

岩出市観光の現状

～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成 25年1月策定～

0：バリアフリーの森林散策路や紀の川平野を一望できる展望台がある根来山げんきの森
0：朝採りの新鮮で安心安全な野菜などが低価格で直売所にならび観光客でにぎわう道の駅「
来さくらの里」

④根来山げんきの森

バリアフリーの森林散策路や紀の川平野を一望できる展望台などがあり、NPO法人根来山げんきの森倶楽部による様々な森林体験が行われている。

⑤道の駅「根来さくらの里」

朝採りの新鮮で安心安全な野菜、果樹、花卉、農産物加工品などが低価格で直売所にならび、大阪方面から和歌山県を訪れる観光客で賑わう。



《根来さくらの里》

岩出市道の駅における現状と課題

岩出市観光の現状～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成25年1月策定～

0：岩出市の歴史がわかる岩出市民俗資料館、文化財等としての価値の高い旧和歌山県会議事堂、白山神社

⑥岩出市民俗資料館

岩出市の歴史を解説した常設展示のほか、企画展示や根来塗講座が行われている。

⑦旧和歌山県会議事堂（一乗閣）

和歌山県会議事堂として明治31年（1898）に和歌山市に建てられた木造2階建ての建物で昭和37年に現在の根来寺境内に移築される。
平成26年度に修復移築されることが決定しており、文化財としての側面だけでなく、観光の拠点としての役割も期待されている。

⑧上岩出神社（白山神社）

701年（大宝元年）創建と伝えられる神社。秀吉の根来攻めで焼失したが、御霊代の神鏡が無傷で残り、その後再建し現在に至る。本殿は根来指定の文化財となっている。

岩出市道の駅における現状と課題

岩出市観光の現状 ～根来街道グリーンツーリズム振興協議会観光ビジョン平成 25年1月策定～

- 0：創業当時の土蔵で昔ながらの酒造りを行う酒蔵
- 0：根来寺を中心に江戸時代から歌い継がれる根来の子守唄

⑨酒蔵（株式会社 吉村秀雄商店）

大正4年創業の酒蔵で、日本建築の建物や土蔵は歴史を感じさせる。今も創業当時の土蔵で昔ながらの酒造りをおこなっており、施設の見学もできる。

⑩根来の子守唄

根来寺を中心に江戸時代から歌い継がれる子守唄で、歌詞には当時の根来寺周辺の様子が唄い込まれている



(根来の子守唄)

岩出市道の駅における現状と課題

岩出市観光SWOT分析

※根来GT観光ビジョンに近年におけるSWOTを赤字で追加

強み

- ・和歌山市や泉南地域、大阪都市圏への交通アクセスに恵まれている。
- ・大阪方面から和歌山を訪れる場合の玄関都市となっている。
- ・和歌山市や大阪府のベッドタウンの機能を有する。
- ・京奈和自動車道等の整備により岩出市へのアクセス向上。
- ・岩出駅と船戸駅が存在。岩出駅と樽井駅のバス運行。
- ・令和6年5月末時点での人口は53,941人（男28,014人、女27,927人）、平均年齢45.8歳、高齢化率25.0%
- ・根来寺周辺に貴重な歴史的文化資産のほか自然を体験できる施設が多数存在。
- ・根来寺境内で桜や紅葉がみられる。
- ・ねごろ大唐、なばな等の特産品が消費者から好評
- ・歴史的景観を備えた酒蔵の存在
- ・**京奈和自動車道紀北西道路及び県道泉佐野岩出線の整備による立地**
- ・**観光、文化、教育施設が密集している。**
- ・**和歌山県全域の観光情報発信が可能。**
- ※そのうえで、道の駅が担う情報提供機能（広域観光、情報の発信、周遊支援、案内所、交通との接続）を再強化し、案内所デジタル媒体等と連携して来訪者の周遊と消費を後押しします。
- ・**和歌山県全域の物産販売が可能。**
- ・**主要施設が無料。**

弱み

- ・岩出市の観光地としての知名度が全国、近畿圏内においても低い。
- ・根来寺周辺のみ観光となってしまう。
- ※本項は、観光客動態調査等により把握可能な主要施設の来訪データに基づく整理であり、データとして補足しない来訪（飲食目的の来訪等）は十分反映できていない可能性があります。今後アンケート等により来訪目的や消費行動の把握を補強します。
- ・特産品の生産量が少ない。
- ・土産物の販売先が少ない。
- ・**観光振興に係る具体的な計画がない**
- ・**岩出市内各種団体の力が弱く、そことの連携が希薄**
- ・**岩出市内に宿泊施設が少ない**
- ・**県内外の認知度不足**
- ・**県内外へのPR不足**
- ・**岩出市の特産品販売数が少ない。**

機会

- ・「いわで夏まつり」「紀州根来寺かくぼん祭り」による市内外の来場者がある
- ・飲食店を目的とした市外からの訪問者が増加傾向にある。
- ・境内に国宝の大塔や重要文化財の大師堂があり、歴史自然散策に多くの人々が参拝し、ホテル鑑賞が可能な根来寺。
- ・季節ごとの風景を楽しみながら自然散策ができる根来寺前山五百仏山遊歩道
- ・四季折々の花を絶やさない和歌山県植物公園緑花センター。
- ・バリアフリーの森林散策路や紀の川平野を一望できる展望台がある根来山げんきの森
- ・朝採りの新鮮で安心安全な野菜などが低価格で直売所にならび観光客でにぎわう道の駅「根来さくらの里」
- ・岩出市の歴史が知れる岩出市民俗資料館、文化財等としての価値の高い旧和歌山県会議事堂、白山神社
- ・創業当時から土蔵で昔ながらの酒造りを行う酒蔵
- ・根来寺を中心に江戸時代から歌い継がれる根来の子守唄
- ・**令和7年度万博**
- ・**道の駅さくらの里の改修**

脅威

- ・岩出市の人口ビジョンでは令和8年度に自然減が社会増を上回る見込み。
- ・宿泊施設が少なく、根来寺周辺では観光旅館1軒のみ。
- ・**物価上昇に伴う節約志向**
- ・**周辺スーパー等の充実**
- ・**令和8年度に岩出市が人口減に転じる。**
- ・**利便性向上により、岩出高速出口で降りる人の減少**
- ・**円安**
- ・**人手不足**

岩出市道の駅における現状と課題

		外部環境	
		機会	脅威
内部環境	強み	積極戦略課題	差別化戦略課題
		・県下全域の情報（物産）を有する独自性を活かした他市町村の観光部局・観光協会等と連携した観光情報発信をする。	・周辺スーパーと差別化された独自の物産の販売
		・ねごろ大唐やなばな等の特産品を確実に道の駅で販売する。	・物価上昇に影響を受けない特産品を開発する
		・万博の機会を活かし、ねごろ歴史の丘のイメージを県内外に大きく発信する。	・人口減少下における女性向けにターゲットを絞った観光、特産品メニューを開発する。
		・昔ながらの酒造りを行う酒蔵と文化財を絡めた歴史的景観を活かした体験メニューを作成する。	・円安における外国人にターゲットを絞った観光、特産品メニューを開発する。
		・京奈和自動車道からの観光ルートを構築する	・宿泊を伴わない観光ルートを構築する。
		・岩出駅や船戸駅、岩出駅と樽井駅のバス運行を活用した観光ルートを構築する。	
	弱み	改善戦略課題	致命傷回避戦略課題
		・季節に応じた自然と観光の体験メニュー、土産物を作成する。	・飲食店を目的とする訪問者に観光地としての魅力を発信する。あわせて、飲食を目的とした来訪や地域ならではの食体験（フードツーリズム）を主要な来訪動機として捉え、情報発信・商品の造成・周遊導線づくりにより市内消費へつなげる。
		・道の駅の観光拠点化にむけた文化財等の効果的な活用方法を検討する。	・ねごろ大唐やなばな等の特産品の高付加価値化。
		・「いわで夏まつり」等を目的とする訪問者に観光地としての魅力を発信する。	・根来寺周辺のみで完結する観光ルートを構築する。
		・万博の機会を活かし、岩出市内各種団体との関係性強化、連携策を実施する。	・人口減少を踏まえた具体的な観光振興計画の策定の実施
		・改修後の道の駅さくらの里と連携することでねごろ歴史の丘のPRを実施する。	・岩出市高速出口からの離脱防止策の検討。
		・特産品に付加価値をつけて高価格で販売し、生産への魅力を向上させる。	・他市町村に宿泊してもらい、岩出に立ち寄る観光ルートを構築する。
・土産物に付加価値をつけて高価格で販売し、土産物の販売先を増やす。			

- 情報発信の強化
- 受入体制の整備
- 地域資源の掘り起こし及び磨き上げ

岩出駅前活性化における現状と課題

i) 岩出市が抱える課題

岩出市は、根来寺及びその周辺を観光拠点として位置づけており、自然、歴史、伝統文化、芸術、食などを活かす取組を行ってきたところである。平成29年には、観光資源の魅力向上や情報発信、また新たな観光資源の創出等を図るための観光拠点施設(道の駅「ねごろ歴史の丘」)を整備し、さらなる誘客を図るための検討・取組を行っているが、観光客数や観光消費の増加は伸び悩んでいる。

令和5年における岩出市の年間観光客数は1,429,749人である一方で、その中の根来周辺に占める年観光客数が大部分の割合を占める一方で、市内その他エリアにおける観光客数が少ない。これについては以下の課題がある。

【課題1 岩出駅前から根来地域への公共交通機関を活用した観光周遊の活性化仕組みがない】

地域経済分析システムRESASの目的地分析によると、2014年7月～2023年3月(休日)の公共交通の検索回数の最大数が12回であり、直近では5回となっているのに対し、自動車での検索回数は根来寺が筆頭で73回で公共交通より多く検索されていること、また直近では根来寺39回、道の駅根来さくらの里20回、道の駅ねごろ歴史の丘15回、緑花センター5回、幸の湯5回と市内複数個所に分散しているとともに回数も多いことがみてとれる。このことから観光客や観光消費の更なる増加のために公共交通を活用した観光周遊の拡大することが課題である。

岩出駅前活性化における現状と課題

【課題2 駅前での情報発信機会の不足】

岩出市では、JR岩出駅を起点とし大阪方面に向かう「大阪方面路線バス」と、岩出市役所を起点に市内3コースで巡回する「岩出市巡回バス」を運行している。「大阪方面路線バス」の運送収入は令和元年度30,338,383円、令和2年度22,204,003円、令和3年度30,477,627円、令和4年度38,201,309円、令和5年度38,349,951円と年々伸びているが近年鈍化傾向にある。また、「岩出市巡回バス」の運送収入は令和元年度897,399円、令和2年度602,196円、令和3年度640,847円、令和4年度629,919円、令和5年度789,524円とこちらも大きな伸びがない状況にある。大きな伸びがない要因としては、いずれのバスも通勤通学など普段使いの利用が中心であり、観光客の利用がほとんどないことがあげられる。情報発信の課題として、駅前で観光の案内がない、情報発信の拠点が遠く、来訪者が少ない等が挙げられる。現状利用の少ないバスの観光客利用を促進することで観光周遊の効率化及び強化を図ることが課題であり、また岩出市内における観光周遊においては公共交通機関の活用が必須であり、各観光スポットへ観光客を効率的に運送するとともに利用促進のための情報発信を強化することが必要である。

【課題3 交流人口の地域への愛着向上及び地域経済の活性化】

岩出市では、緑花センターをはじめ根来山げんきの森、民俗資料館など無料で利用できる施設が多い一方で有料の施設が根来寺の入山料など限定されている。観光で来られた方に、道の駅や市内の飲食店などでお金を落としてもらう仕組みの構築が課題である。観光拠点が集約する根来地域でお土産等を販売する道の駅ねごろ歴史の丘は市内事業者の産品を多く取り扱っているが、令和5年度における売上金額は60,139千円となっており、令和4年度における売上金額57,689千円、令和3年度における売上金額46,449千円と比して売上の伸び幅が鈍化している。売上の更なる増加のためには、公共交通の利用を促進し、観光周遊を活性化させて観光客数や観光消費を増加させることが課題である。また観光客と地域住民が交流する場所がなく、岩出市を訪れた観光客が「岩出に来てよかった」「また来たい」と思わせる仕組みがなく、観光客が折角岩出市を訪れても岩出市の魅力を十分に堪能することなく、帰られることが多いことが見込まれることから、実際に岩出市に住む地域住民と気軽に交流できる場所の提供により岩出市への愛顧を向上させることが課題である。加えてインターネットやSNSなどを通じて、市の魅力を発信しているが、岩出市は交通の要衝である一方で、通過都市となることが多いため、さらに市の魅力を周知し、誘客を図ることが課題である。また、来訪者が市内で滞在し、回遊・消費に繋がるためには休憩環境(ベンチ・日陰等)や分かりやすい案内、トイレ等の受け入れ機能に加え、公共交通等による移動手段や宿泊も含む受け入れ体制の拡充が主要である。これらが不足すると来訪しても短時間で通過してしまい観光消費が伸びにくいことから、関係者と連携し改善を図る必要がある。27

岩出駅前活性化における現状と課題

ii) 岩出市が抱える課題に対する利活用方策

整備対象施設である観光案内所の設置場所は、岩出駅から徒歩2分の好立地を予定しており、また隣接地には岩出市民が訪れる岩出地区公民館がある。また、市北部の根来地域(京奈和自動車道「岩出根来IC」付近)に観光施設が集約していることからこれらを結ぶ出発地点として観光案内所の整備を行うことで公共交通の利用を促進し、観光周遊を活性化させて観光客数や観光消費を増加させる。

【情報発信の拠点としての観光案内所】

岩出駅を訪れる旅行、ビジネス客をターゲットに、岩出市の観光スポットや飲食店などを紹介。またその際バスの出発地点とすることで、効果的に岩出市の観光スポット等をめぐる仕組みを構築する。加えてSNSやHP等で簡単に情報が収集できる昨今において、わざわざ観光案内所に来て情報収集する価値が低下するなか、他の施設と差別化し、観光案内所として活性化するべく、「観光案内所に行かなければ入手できない情報」「SNSやHP等では入手できない情報」「最新の旬な情報」など、付加価値の高い情報提供機能を備えた施設とする。

また、「岩出に来てよかった。」と提供いただける魅力をインターネット、SNSなどで発信できるようにWi-Fiを整備し、岩出市観光協会が発信する情報やSNSイベントなどと連動させるとともに岩出市商工会や岩出市観光協会の市内飲食店や食品加工事業者によるイベントなどを通じて、市の魅力を体感できる仕組みを作り出し、岩出市のファンを増やしていく。また、観光案内人による魅力ある「おもてなし」を構築していき、寄ってみたいと思う観光案内所にするすることで本市の魅力を知らせていただきリピーターをふやし、交流人口の増加につなげる。

【バス発着点の集約化】

「大阪方面路線バス」と「岩出市巡回バス」の出発地を本観光案内所周辺とすることで、大阪と岩出の利便性を向上させ、観光周遊の促進を図る。具体的にはJR岩出駅を訪れた観光客が大阪方面に向かう観光スポット(根来さくらの里、ねごろ歴史の丘、根来寺、緑花センターなど)や、市内の飲食店などを回れるような観光ルートを構築する。公共交通を活用して観光客が市内を周遊する利便性を向上させるためにバス発着点を集約化する。

また、来訪者が市内で滞在し、回遊・消費に繋がるためには休憩環境(ベンチ・日陰等)や分かりやすい案内、トイレ等の受け入れ機能に加え、公共交通等による移動手段や宿泊も含む受け入れ体制の拡充が主要である。これらが不足すると来訪しても短時間で通過してしまい観光消費が伸びにくいことから、関係者と連携し改善を図る必要がある。

岩出駅前活性化における現状と課題

【地元住民と観光客の交流イベントの実施】

観光案内所の屋内や屋外のインターロッキングスペースを活用し、地元住民と観光客が交流できるイベントを定期開催する。具体的には、根来塗体験、クラフト体験、根来鉄砲隊のなりきり衣装体験などの岩出市ならではの各種体験の実施や地元住民が主催するワークショップやセミナーなどので利活用、観光案内人による岩出市の飲食店の見どころをプレゼンするイベントなどを実施する。岩出市内の事業者による物販イベントを開催する。またイベント開催にあたっては参加料などを徴収し、持続可能性を高める。

【岩出駅と観光案内所を結ぶ歩道でのにぎわい創出】

岩出駅と観光案内所を結ぶインターロッキング舗装が行われた歩道上において、店舗によるにぎわい創出の為のイベントを定期開催する。具体的には現在岩出駅と観光案内所予定地の間にある衣料品店や電器店、動物病院、学習塾などを共通のテーマ(季節のお花など)で装飾し、現状のにぎわいに欠ける状況を打破し、観光客や地元住民を喜ばせる視覚的取組を実施し、観光案内所と各店舗への誘客を図る。

【公共交通機関と連携したイベントの実施】

観光案内所の外構部分を活用し、①バス乗車体験学習②バスラッピング事業を実施する。具体的には、①子どもが実際にバスの運転席に座り、バスの機能について運転手から説明を受けるほか、ホースを使ったバスの清掃などを体験する。②子どもがバスのデザインを作成し、実際のバスにラッピングをして市内を周遊させる。これらにより、子どもの頃からバスを身近に感じさせることで、公共交通への理解促進及び愛顧向上を図る。またイベント開催にあたっては参加料などを徴収し、持続可能性を高める。

岩出駅前活性化における現状と課題

iii)まとめ

バス発着地点の集約化や公共交通機関の活用で、JR岩出駅から岩出市内各観光施設や飲食店等への観光ルートを確認する。周遊を観光客に分かりやすく伝えることで、観光客ニーズを充足させ、満足度の向上ならびにリピーター化につなげる。また岩出駅と観光案内所を結ぶ歩道での人を飽きさせない定期的なにぎわい創出により、何度も訪れたいくなる仕組みを構築する。以上により課題1「公共交通機関を活用した観光周遊の効率化及び強化」の解決に寄与する。

観光案内所を作って観光案内人を雇用することで、その地域が持続可能な観光地として成り立つための基礎を立ち上げる。観光案内所を他の施設と差別化し、活性化するべく、「観光案内所に行かなければ入手できない情報」「SNSやHP等では入手できない情報」「最新の旬な情報」など、付加価値の高い情報を提供するべく、地元事業者や地元住民への定期的なヒアリング活動やコミュニケーションを観光案内人が行い、そのスキルを向上させることで、観光客への個別ニーズに対応した丁寧な接客により、観光客のニーズを充足させ、自身のモチベーションの向上、更なるサービスの質向上を図ることにより固定客増加につなげ、観光案内所の売上向上、持続化に寄与させる。以上により、課題2「岩出駅前から根来地域への観光周遊の活性化」の解決に寄与する。

地域住民と観光客が交流できる定期的なイベントなど、観光客が自然に岩出の文化に馴染める交流拠点として利用を促進することにより、観光客が何度も訪れたい場所、安心して暮らせる場所だということをPRし、交流人口から将来的な関係人口引いては移住へとつなげることにより、課題3「交流による交流人口の地域への愛着向上及び地域経済の活性化」の解決に寄与する。